

令和7年度 高津中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において

<成果>

○男子

握力は全国と比較して3.2ポイント下回った。上体起こしは全国と比較して2.77ポイント下回った。長座体前屈は全国と比較して1.08ポイント下回った。反復横跳びは全国と比較して3.49ポイント下回った。20mシャトルランは全国と比較して2.77ポイント上回った。50m走は全国と比較して0.21ポイント下回った。立ち幅跳びは全国と比較して5.6ポイント下回った。ハンドボール投げは全国と比較して1.26ポイント下回った。体力合計点は全国と比較して0.17ポイント下回った。

○女子

握力は全国と比較して1.59ポイント下回った。上体起こしは全国と比較して2.84ポイント上回った。長座体前屈は全国と比較して1.76ポイント上回った。反復横跳びは全国と比較して3.22ポイント上回った。20mシャトルランは全国と比較して1.08ポイント上回った。50m走は全国と比較して0.3ポイント下回った。立ち幅跳びは全国と比較して3.5ポイント上回った。ハンドボール投げは全国と比較して1.34ポイント下回った。体力合計点は全国と比較して0.64ポイント上回った。

<課題>

女子は全国平均を上回ることができたが、男子は上回ることができなかった。保健体育科の授業だけでなく、家庭科や他教科との教科横断的な視点を持って、食事・睡眠等体作りの基本となる視点も持ちながら生徒の体力向上につなげていく取り組みを考えていく。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<成果>

(1年生)国語の平均点は大阪府と比較して3.3ポイント、大阪市と比較して3.1ポイント上回った。平均無答率も大阪府より1.7ポイント、大阪市より0.6ポイント低い結果となった。社会の平均点は大阪市と比較して5.7ポイント上回った。平均無答率は大阪市より0.1ポイント上回った。数学の平均点は大阪府と比較して7.1ポイント、大阪市と比較して6.2ポイント上回った。平均無答率は大阪府より2.5ポイント、大阪市より1.3ポイント低い結果となった。理科の平均点は、大阪市と比較して1.3ポイント上回った。平均無答率は大阪市より1.2ポイント下回った。英語の平均点は、大阪府と比較して5.3ポイント、大阪市と比較して13.5ポイント上回った。平均無答率も大阪府より1.1ポイント、大阪市より0.3ポイント下回っている。

(2年生)国語の平均点は大阪府と比較して8.2ポイント、大阪市と比較して7.5ポイント上回った。平均無答率も大阪府より3.1ポイント、大阪市より2.4ポイント低い結果となった。社会の平均点は大阪府と比較して9.7ポイント、大阪市と比較して9.0ポイント上回った。平均無答率も大阪府より3.1ポイント、大阪市より2.4ポイント低い結果となった。数学の平均点は大阪府と比較して11.2ポイント、大阪市と比較して10.2ポイント上回った。平均無答率は大阪府より5.8ポイント、大阪市より4.4ポイント低い結果となった。理科の平均点は、大阪府と比較して9.2ポイント、大阪市と比較して8.0ポイント上回った。また、平均無答率は、大阪府より3.1ポイント、大阪市より2.3ポイント低くなった。英語の平均点は、大阪府と比較して11.4ポイント、大阪市と比較して10.0ポイント上回った。平均無答率も大阪府より3.5ポイント、大阪市より2.8ポイント下回っている。

<課題>

どの教科においても大阪府、大阪市の平均点を上回ったが、各教科の詳細を見ると、それぞれの教科での課題がみえてくる。1年生国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域、数学では「関数」の領域の得点が大阪府平均並みとなっている。英語については、どの領域においても大阪府・市の平均を大きく上回っている中で「聞くこと」の領域が、最も大阪府・市の平均に近い点数であった。2年生では五教科とも、どの領域においても大阪府・市の平均を上回っており、分野・領域においての偏りは見られなかった。

【今後に向けて】

これまで、どの教科においても、1人1台端末を効果的に活用し、授業の中で自分で考えたことを他者に分かりやすく発表したり説明したりする活動を多く取り入れて表現力を育むとともに、始業前の読書活動等を通して読解力の育成を図ってきた。これらの取組が、大阪府・大阪市の平均正答率を上回った成果につながったと考えられる。

今後も授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善の取組として、これまで本校で取り組んできている習熟度別少人数授業やチームティーチングを効果的に活用し、生徒一人ひとりにていねいな学習指導を展開し、個々の課題解決につなげていきたい。